

目には遠いが心は近い

ーインド・日本グローバル・パートナー・サミットに参加してー

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

先週の月曜日・火曜日・水曜日に東京のプリンスホテルで開かれましたインド・日本グローバル・パートナー・サミットに参加させていただきましたので、今日はインドのお話をさせていただきます。

2. 目には遠いが心は近いーインド・日本グローバル・パートナー・サミットに参加してー

(1)インドについては、近年経済が非常に伸びているということをお聞きになった方もいらっしゃると思います。この 10 年以上の間、インドは経済の成長率 7 %をずっと続けております。中国についてはよくお聞きになるとと思いますが、インドも最も注目になる国の 1 つだと思います。

(2)インドの特色の 1 つは、人口の半数が 25 歳以下であるという非常に若い国だということです。30 歳以下の方が 60 %以上の若い方が非常に多い国であります。

(3)しかし、インドは経済的にはまだまだ大変で、1 日 1 ドル以下で暮らしている貧困の方も何割かはいらっしゃいます。そのような貧困を撲滅するためにはどうしたらよいのか。

(4)貧困の撲滅のためには、小学校にきちんと行くという初等教育が大事。中学校にきちんと行く。それから、高等学校にもきちんと行く。小学校で読み書きを勉強し、中等教育、つまり中学校と高等学校をきちんと出てもう少し難しい勉強をする。最後は、高等教育である大学・短大・専門学校に進学をして、もっともっと能力を高めていく。インドは本気でこれらのことを目指しています。

(5)さらに、これから先の貧困を撲滅するために人口の 20 %を大学まで行かせたいということで、5 ～ 10 年間をかけて大学を 2000 つくるというお話を、インドの国会議員の方がその会議で演説していました。それを聞いて私はびっくりしました。日本では、子供達の数が少なくなって大学に行く方が少なくなり、そのために大学の経営が大変だというときに、インドでは、貧困を撲滅して高等学校が終わった方のせめて 20 %ぐらいは大学に進学させたいという思いから、大学をこれから 2000 つくるといいます。このような国もあるんだなと私は本当にびっくりしました。日本は大学の教育について豊富な経験があり豊かな国でもあるので、インドが大学をつくる際には日本の大学や企業もぜひ協力して下さいということでした。

(6)インドにもっともっと必要なのは工業高校や専門学校です。高等学校に行く人がすべて大学に行くわけではありませんので、工業専門学校や商業専門学校、農業専門学校などに進む方を増やしたい。また、農業高校・工業高校・商業高校をつくりたい。特に、専門学校としては工業専門

学校を作って工場で働く方をもっと増やしたり、仕事に就く方をもっと増やしたりする。教育の充実で貧困を撲滅したいというお話を何回も何回もお聞きしました。これは難しい言葉で人的資本の充実、英語ではヒューマン・キャピタルの充実と言います。インドは、科学技術の分野で世界で最も人的資本の多い国ですので、そのような方々を顕在化し、そして、人口の大多数を占める方々に対しても知的基盤を与えてもらいたいということでした。インドは、人口の半数ぐらいが 25 歳以下である世界で最も若い国の 1 つですので、人的資本を活用して貧困を撲滅したいというお話を聞いて、私は本当に驚き、また、感銘を深くしました。

(7)日本はインドのために何ができるのかということについては、先程もお話しましたように、日本には 700 ぐらいの大学がありますが学生がいなくて困っているのです。ですから、できればインドともっと交流していただき、インド国内に日本の大学の校舎をつくるということが考えられます。

(8)また、インドの方は非常に熱心に勉強します。中学生・高校生・大学生も眠る時間以外は勉強します。大学院生も眠る時間以外は勉強します。違うのは、中学生の睡眠時間・高校生の睡眠時間・大学生の睡眠時間です。中学生は 7 時間ぐらい寝ますが、高校生になると 6 時間、大学生になると 5 時間、大学院生は 4 時間というように睡眠時間は、だんだん短くなります。眠る時間以外はずっと勉強し続けている方が山ほどいます。ですので、日本の中学生・高校生・大学生・大学院生よりははるかに多い時間勉強している人がはるかに多いかもしれませんね。

(9)インドの方の勉強する目的は、例えば、国を立て直したい、自分が生まれた郷土を豊かにしたい、自分の家の近くの病院で働きたい、家族を養いたい、自分の生活を自分で切り盛りしたいなど実にはっきりしています。日本は豊かな国ですので、ここまで考えなくてもいつかどうにかなるだろうとあまりはっきりせずに何となく過ごしていたり、勉強していたりという方々がたくさんいらっしゃいます。ですから、目的意識のはっきりしているインドの方は、日本の学生と比べると勉強の仕方が激しい。勉強する意欲もたくさん持っていますので、日本の学生とインドの学生が交流ができて勉強も一緒にすれば、日本の学生にとってもインドの学生にとっても素晴らしいことになるのではないかなと思います。これは夢のような話ですが、インドも日本に期待することが多いですので、ぜひ期待に応えられるとよいかなと思います。

(10)今週の月曜日に、駐日インド大使とお話をする機会がありました。40 人ぐらいのインドの方々が日本の被災地に来て下さり、救援チームは 2 ～ 3 週間ずっと野営をしながらの被災地での救援活動をして下さいました。また、お菓子やパン、ビスケットなどもたくさん持ってきていただいて、避難所の方々に振る舞っていただいたそうです。

(11)目には遠いが心は近いということわざがインドにはあるそうです。インドと日本の心は非常に近いと思いますので、日本はインドのために何ができるのか、インドは日本のために何ができるのかをぜひお互いに考え合って、そして高め合っていったら素晴らしくなると思います。

3. おわりに

今日は、先日、インド・日本グローバル・パートナー・サミットに参加しましたので、インドのお話、人口の半数以上が 25 歳以下であり、勉強したい方がたくさんいらっしゃるというお話をさせていただきました。インドの方々と仲良くなりましょうね。